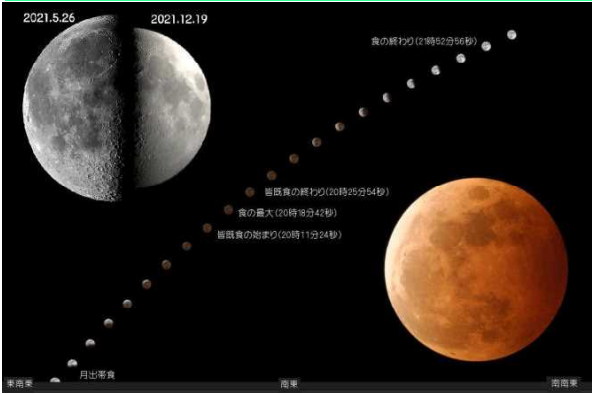


5月大天体ショーが始まる



今回の皆既月食は珍しさが満載です。まずはスーパーパームーン皆既月食です。スーパーパームーンは皆さんよくご存じの通り、その年で一番大きな満月ですね。このタイミングで起きる皆既月食にはそう簡単

5月26日、今月も月がやってくる!!
皆既月食がスーパーパームーンで赤銅色で月出帯食だ!!

には出会えませんが、前回は2015年9月28日に起きましたが、残念ながら日本からは見えませんでした。次回は2033年10月8日までありません。それくらい珍しい現象なのです。ちなみに今年一番小さい満月は12月19日です。大きさを比べると、直径で約14%、面積では今回の方が約30%も大きいのです(上の写真を参照)。ずいぶんその大きさが違うでしょ。並べるとその大きさの違いがわかりますよ。また、皆既月食時によく見られるのが赤銅色(しゃくどろ)というこの満月です。皆既月食の時、なぜ赤銅色に見えるのかについては詳しくは紙面を割きませんが、簡単に言うと太陽からの光が地球に当たったとき、波長の短い青色は散乱してしまっけれど波長の長い赤い色は散乱せずに地球の縁で屈折します。それが月に当たり、赤く見えるというわけです。またいつか、この紙面で図入りで詳しく



プラネ新聞

発行所 岐阜市科学館
〒500-8389
岐阜市本荘3456-41
TEL: 058-272-1333
FAX: 058-272-1303

説明するつもりです。そんな幻想的な赤銅色の満月を楽しんでください。さて、もう一つ。なんと月食を起こしたまま東の空から昇ってくるのです。この現象を月出帯食(げっしゅつたいしよ)と言います。岐阜市科学館辺りでは午後6時51分に月が昇ってきます。しかしその時にはすでに月食が始まっていて、食分は0.1です(食分については令和2年6月号で紹介)。直径のおよそ10%ぐらいが欠けた状態で満月が上ってきます。また、図にも書いてあるように皆既月食は午後8時11分24秒〜午後8時25分54秒までと15分未満です。このように短い皆既月食はまれで、次回は2144年4月18日まで起こりません。さあ、珍しいことづくめの皆既月食を楽しみましょう。



人気のない展示物の紹介シリーズ 「鉄隕石」

今回は鉄隕石だ。ただ置いてあるだけなので、つい見過ごされてしまいがちな展示物。宇宙空間を何万年、いや何億年さまよって続けたかもしれないその**本物**に触れることができる。また、その横には、鉄隕石と同じ重さの水が入ったペットボトルを入れてあるバケツがある。この小さな鉄隕石の重さをこのペットボトルが入ったバケツごと持ち上げることで実感してほしい。おそらくその重量にびっくりするはずだ。

この小さな鉄隕石の重さをこのペットボトルが入ったバケツごと持ち上げることで実感してほしい。おそらくその重量にびっくりするはずだ。

おとめ座は日々満足しているおとめ

今月中旬、午後9時頃、南の空に1等星スピカが輝いています。その輝きから真珠星とも呼ばれています。さて、そのスピカを持った星座がおとめ座です。今回はこのおとめ座のお話です。

この主人公は女神です。でも、ただの女神ではありません。なんと、一人なのに女神を二役兼任しているのです。一役目は右の手に持っている羽ペンがその象徴である正義の女神アストレアです。彼女は地上に住んでいる人間に正義を説いてまわっていました。また足もとにあるてんびんで、罪を犯した人間の罰を決めていました。

ていきました。二役目はその左手に持っている麦の穂が象徴している、農業の女神デーメテルです。彼女が屋外にいる限りは田畑は実り、人々は平和に暮らすことができていました。このようにこの女神は一人なのに二役の女神を兼任できて非常に満足した日々を送れているだろうと想像します。

ところが、ここからがこのおとめ座に関する新説です。実はこのおとめ座の主人公は、毎日とてもイヤな思いをしているだろうというのです。それは、なんと頭がししのお尻に突っ込んでいます。これは、お尻をおくられませんか。ちょっとかわいそうです。

